

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770800809		
法人名	ALSOKジョイライフ株式会社		
事業所名	グループホームしらさぎ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市東住吉区今川8丁目3号10番地		
自己評価作成日	2024年9月10日	評価結果市町村受理日	2024年11月30日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770800809-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2024年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームしらさぎは、認知症をお持ちの方々へのサービスに特化した「生活の場」です。「ええ塩梅な暮らし」という合言葉のもと「良い状態を1日でも長く」を目標として、「認知症になっても自分らしく暮らしたい」そんな気持ちを大切に、共同生活を活かし、ご家族さまもサポートできる支援サービスを提供しています。その方が普通と感じられる生活環境を提供し、個と個をつむぐ共同生活を大切にします。また、個と公のバランスのとれた生活環境をご用意し、ご家族と共に支援を行い、その方にとって必要な地域交流を支援いたします。ご自宅のような和やかな雰囲気をお大切に、全てのご入居者さまのそれぞれの個性をいかしながら、心地よく安心して暮らしていただける環境づくりに、スタッフ一同努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関東・関西地方等で介護サービス事業を広く展開している株式会社運営するグループホームです。「社会貢献・社会奉仕」の目的で開設されました。ホームの前には広い公園があり、四季の移ろいを感じることができます。手入れの行き届いた花壇に植えられた色とりどりの花を見ながらホームに入ると、フロアは広く明るく、ゆったりとした雰囲気です。「ええ塩梅な暮らし」を理念に掲げ、利用者が1日でも長く良い状態で暮らせるように支援しています。退屈な時間を作らない様にとレクリエーションやイベントに積極的に取り組み、利用者や家族に喜ばれています。また、五感への刺激が生活の張りになるとの考えで「外に出かける意義」を大切にし外出の機会を多く作っています。数多くの研修実施をはじめとする法人全体のバックアップで安心して働ける職場環境にあり、また、管理者が「うちの自慢は職員のスキルの高さ」と職員の頑張りを承認する職場環境は、職員の士気を高め、定着率の高さに現れています。理念の「ええ塩梅」の実践で、温かいぬくもりを感じることができるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・目標を玄関に掲示している。会議の場でもそれに基づいて話し合いを行い、常に意識し取り組んでいる。	「ええ塩梅な暮らし」を理念に掲げ、利用者が1日でも長く良い状態で暮らせるように支援しています。理念は玄関に掲示し、フロア会議では理念を確認し、足元を見直す機会にしています。利用者に温かく接し、何をしたら喜んでもらえるか考えながら支援にあたっている職員の姿に、管理者は理念の確かな実践を感じています。	今後、理念をより具体化するための目標等をみんなで考え取り組まれたらいいかがでしょうか。また、目標が実践できているかを運営推進会議の参加者等、外部の方たちに評価してもらうことで、さらに高く理念の実践に繋がることでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板をまわしたり、近所の商店を利用している。地域行事の敬老会にも参加。また、地域振興センターでのレモン喫茶も利用している。	ホームは地域活動の盛んな地域にあり、町会に加入し、桜の会・敬老の会・ふれあい喫茶等に参加しています。選挙の期日前投票に区役所に出かける利用者もいます。ホーム前の公園への散歩では、地域住民との交流もあります。ボランティアによるイベントは、利用者の生活に潤いを与えています。管理者は、小学校の見守りができたらとの考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で住んでおられる認知症高齢者やそのご家族からの相談に対し、グループホームの説明や役割をお伝えしている。運営推進会議などで事業所での取り組み内容を地域の方にお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施。(コロナ禍は文章でのやりとり)地域包括支援センターの職員、ご家族、町会の方々などに参加していただき、GHの取り組みや地域の情報などお互い情報交換の場となっており、サービスの向上にもつながっている。	家族・町会役員・地域包括支援センター職員等の参加で実施しています。家族の参加が多いのが特徴です。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。数多くの行事やイベントのカレンダーを作ったらとの助言で、イベントカレンダーを作ることができ、利用者や家族に喜んでもらっています。	会議は報告中心になりがちですが、ホームが抱えている問題も開示することで、より開かれた運営推進会議になることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険関係者連絡会があり、各事業の代表者や福祉課の職員が参加しており、情報交換を行っている。日頃から介護保険や福祉関連、防災についてなど区の職員と連絡をとり連携を図っている。	困ったことやわからないことがあれば、区役所の担当課や地域包括支援センターに相談できる関係です。管理者は、グループホーム就任の際、細かいことまで助言をもらえたと感謝しています。区のグループホーム連絡会での情報交換もホームの運営に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、虐待防止と関連して月に1回会議で話し合いを行っている。(勉強会も年に2回実施)月に1回スタッフに”振り返りシート”を提出していただき、意識の向上、身体拘束廃止・虐待防止に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を開催、定期的に研修も行っています。委員会では、ケアの振り返りと次回への確認をおこなっています。管理者は、職員に関心を寄せ、個人面談や働く環境の改善等、職員のストレスが溜まらないように見守っています。離職者が少なく、長く一緒に働いている同士だから分かり合えることも強みとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、身体拘束と関連して月に1回会議で話し合っている。(勉強会を年に2回実施)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加し、参加できていない職員には伝達研修を行っている。社内で成年後見制度についての研修も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明と質疑応答を行い、理解・納得していただけるよう努めている。家族懇談会を実施し、改定などの説明も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者は日頃の会話や表情などから意見や要望を聴く、又は感じとるように心掛けている。ご家族は施設玄関に意見箱を設置している。また、日ごろからコミュニケーションを取り、意見や要望を確認している。	面会は自由で、訪れる家族は多く、面会時には、その都度声掛けをして、利用者の状況を報告し、要望や意見を聞くようにしています。家族会があり、イベントレクリエーションへの参加を呼びかけています。食事の風景や日常の利用者の過ごし方をみてもらう中で、その生き活きた表情に安心したとの声が聞かれています。また、ブログの細かい更新も、家族に喜ばれています。職員の顔と名前がわからないと意見があり、職員の顔写真付きの紹介ボードを作り玄関に掲示しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で積極的に意見交換を行っている。管理者やスタッフリーダーは職員と個別に面談を実施し、意見を聞く機会を作っている。	毎月のフロア会議で意見を出し合い、サービスの向上に繋げています。管理者による定期・随時の個別面談で、職員の意見を聞いています。法人全体による人材育成のシステムが充実しており、研修の機会も多くあり、サービスの質の向上に繋がっています。管理者が「うちの自慢は職員のスキルの高さ」と職員の頑張りを承認する職場環境は、職員の士気を高め、定着率の高さに現れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキル認定制度を活用し、スタッフが目標をもって成長していけるように環境整備に努めている。資格取得のための勉強会も実施している。(介護福祉士・介護支援専門員)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤を問わず、社内外の研修に参加していただいている。OJTも実施している。個々のレベルに合わせた育成も実施(育成チェックシート活用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区のGHやCM連絡会に参加し、勉強会や施設見学を行い、情報交換を行っている。取得した情報については、申し送りなどを通じて施設全体に落とし込みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入までにご本人と面談を行ったり、ご自宅を訪問し、住んでおられる環境の確認をしている。ご家族や知人、担当ケアマネの方々から情報を収集し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入までにご家族との面談で質疑応答を行い、お困り事や不安な事の把握に努めている。また、その際に「できる事・できない事」を明確にわかりやすく伝えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入までにしっかり情報を集め、それをもとにスタッフ、ご家族と話し合いを行い、支援方法を決めて実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相互扶助の精神に基づく人間関係を大切に、日常の家事や以前の生活スタイルをなるべく継続できるように支援を行っている。今までの習慣を大切に、生活に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支えていく関係の構築に努めている。(特に看取りケア時は要望をお聞きし、ともにケアしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の自宅の近隣の方々に来訪していただいている。入居前に行っておられた馴染みの店や場所にも行き、ご本人が安心して生活していただけるよう支援している。病院は入居してからも馴染みのかかりつけ医を利用していただけるように支援している	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。馴染みの理髪店に行ったり、墓参りや法事で自宅に帰る利用者もいます。入居前には「暮らしのシート」に本人の交友関係や好きなこと・嫌いなことを始めとする様々な日常を家族に記入してもらい、日々の支援に活かしています。子どもが近くの施設に入所している利用者には、子どもとの関係が途切れないことに注力した重層的な支援計画を作成中です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身で他の方との関わりを持つ事が難しい場合はスタッフが間に入り支援を行っている。適時コーディネートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族関係や健康状態なども考慮し、必要に応じて相談や対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず自宅を訪問し、以前の生活スタイルを確認している。暮らしのシートの情報を参考にしながら暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	入居前の訪問で本人や家族の意向を聞いています。また、家族に書いてもらった「暮らしのシート」の情報を職員間で共有し、毎日の支援に活かしています。日頃の何気ない会話や様子から、希望・意向や変化を把握するよう心掛けています。散歩に行った際に「いつもと少し違う」と気づき、脳梗塞の早期発見ができたケースがあります。日常の関わりの中での気づきや発見を、毎日の申し送りで口頭で伝えています。離職者が少なく、利用者職員との馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや主治医に聞き取りを行い、これまでの暮らしの情報把握に努めている。聞き取りに問題なければ可能な範囲で集約を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常をしっかりと観察し、少しの変化にもすぐに気づけるよう現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネや担当スタッフによる月1回のモニタリングを実施。それをもとにカンファレンスを行っている。ご家族、知人、医師、看護師などからの意見を取り入れ、時には協力をお願いし現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族の意見や意向を尊重した介護計画です。基本3か月毎に更新していますが、体調や状態に変化があれば、都度更新します。モニタリングは毎月実施しています。担当者会議には家族に参加の呼びかけを行っています。介護記録は、利用者の声が聞こえるような記録が目立ちます。計画作成担当者は、「ホームでの楽しみが生きがいになるような計画」を心がけて作成しています。また「家族の協力が大事」との考えで、実際、一人ひとりの介護計画には「家族」の表記が多くみられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの様子の変化を記録に残し、他のスタッフと情報を共有し、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、受診などさまざまなニーズに合わせて個々に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力を得て、花見や祭りなどの行事に参加している。近所のスーパーや喫茶店なども利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入居時にご本人・ご家族の意向で決めている。入居前からのかかりつけ医診察を希望される場合は、そのまま受診していただいている。その他の方はGHとの連携医療機関での対応を行っている。	連携医療機関による内科(月2回)・精神科(月1回)・外科(月1回)の訪問診療と週2回の訪問看護師により健康管理を行っています。かかりつけ医の選択は自由ですが、利用者全員が連携医をかかりつけ医に選んでいます。また、希望に応じて歯科訪問やマッサージ施術も可能です。夜間や緊急時の対応は24時間の医療連携体制を築き、利用者や家族の安心を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間体制で連絡を取れるようにしている。定期的に訪問看護を実施し、ご利用者の状態を伝え適切な受診が行えるように助言、指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、医療機関やご家族と情報交換を行い、入院中の適切な対応が行えるよう支援している。退院時の調整についても医療機関の相談員と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご本人、ご家族の意向を聞き話し合いを行っている。また、「重度化した場合・看取り対応指針」で説明も行っている。状況に合わせて医療機関にも往診対応していただけるよう協力をお願いしている。	入居時「重度化・看取り対応指針」を説明し、利用者の状態変化に伴い、家族と話し合いを重ねています。看取りケアの開始は医師の診断のもと医師・看護師・職員・家族等のチームで、利用者が最期まで安心して過ごせるように支援しています。また家族の精神的な負担等に心を配り、面会や宿泊等にも対応しています。昨年は6名の看取りを行いました。居室で「最後のお別れ」を終えた家族は「このホームで良かった」と感謝と労いの言葉を伝えていきます。看取り後はフロア会議で振り返りを行い、研修会も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、スタッフ全員で周知している。研修に参加したり、勉強会を行い、救急救命対応を学んでいる。(AEDの使い方・のど詰めの対応など)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災訓練を昼・夜の設定で消防署の指導のもと年に2回実施。避難場所や非常食の備蓄など区の担当職員と連携をしながら取り組んでいる。2カ月に1回防災について会議で話し合いを行っている。	ホームの実情に即した「災害マニュアル」を作成しています。年2回の避難訓練は日中・夜間を想定し消防署の指導のもと実施しています。利用者の参加は状況に応じて、無理をしない範囲で行っています。BCP計画書に基づいた災害備蓄品や室内外の防災対策の点検整備を行い、備蓄品は1・2階に保管し、管理者が管理しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に接遇研修などを受け、人格を尊重しプライバシーを損ねない対応を行っている。月に1度職員会議で振り返りを行い、良い所・悪い所などを話し合っている。	定期的な施設内研修(権利擁護・認知症ケア・接遇マナー等)を実施しています。フロア会議では利用者の誇りを尊重した言葉かけや対応を話し合い、実践しています。特に排泄、入浴、入室時はプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけています。職員の不適切な言葉かけや対応があった場合は管理者がヒアリングを行い、気づきの意識化を図れるように指導しています。日頃から管理者・職員間で話し合える職場環境にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自己決定した」という印象が残るような対応をしている。常に選択肢を提供し、援助する側の価値観を押し付けないように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、以前からの習慣や生活リズムを大切に、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着やすさを優先するのではなく、その人の好みを大切に支援している。外出や行事などおしゃれの機会を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、皿洗い、食材の購入などご利用者と一緒に行っている。食事中に音楽や会話など楽しい雰囲気作りに努めている。	主食のご飯と味噌汁は職員が調理し、副食はクックチル食を温めて提供しています。「食の楽しさ」を工夫し、和やかな雰囲気の中で四季折々の季節料理(おせち、ちらし寿司、鍋料理等)を味わっています。また、「たこ焼き」「バーベキュー」等のパーティーを楽しみ、ノンアルコール(ビール・日本酒)も提供しています。おやつ作りも楽しみの一つです。利用者は調理の手伝い、盛り付け、皿洗い等を進んで行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて量や形態など工夫をしている。水分量も好みや習慣に合わせて提供し、飲みやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを実施している。歯科医の訪問により、指導・助言もいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々に合わせた排泄パターンを把握し声かけを行ったり、状態に合わせて紙パンツから布パンツに変更したりポータブルトイレを使用したりと、快適に排泄していただけるよう支援している。	職員は一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、その人に応じた支援と方法を考えてトイレ支援を実施しています。入居時、車椅子対応の利用者が排泄支援とリハビリを通して補助具の歩行でトイレ排泄が可能となり、自尊心を取り戻せた事例があります。各フロアにトイレは3ヶ所あり、車椅子対応が可能です。その内の1ヶ所は男性用の小便器も設置しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物(乳酸菌、食物繊維など)の工夫やお腹を温める、運動などを行い予防に努めている。医師にも相談しながら適切な排泄ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間を決めずに希望に合わせた対応を行っている。入浴剤や季節のお風呂(ゆず湯、ショウブ湯など)を楽しんでいる。	週2回、午前入浴ですが、時間帯や回数は柔軟に対応しています。特に異性介助の場合は利用者の心情や状況に配慮し対応しています。利用者の身体状態に応じた2人介助は安全面に配慮して支援しています。浴室の脱衣場とトイレは内扉の開閉で移動でき、プライバシーを確保しています。浴室の外扉に貼られた温泉マークのラベルは分かりやすさと温もりを伝えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間などは決めず、個々のリズムに合わせて休んでもらっている。ご自身で判断が難しい方には、声かけや環境を整える等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について医師に確認し、スタッフ間で情報を共有している。薬の開始や中止時は状態を細かく記録に残し医師に伝えている。すぐに確認できるようファイルに薬情報を綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や家事、習字、ピアノ、晩酌などその人の習慣や楽しみ、役割などを大切に支援している。状況に合わせて個人対応や適したグループを設定し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて買い物や散歩の支援を行っている。ご家族や友人の方々にも協力をお願いし、以前からの習慣であったお寺詣りや旅行などに行ってもらったり、車イスの方は、近くの公園や施設前又は、中庭に出て日光浴をするなど外出の支援を行っている。	週2回の「散歩の日」は近隣の散歩や買い物等、利用者の希望に応じた日常的な外出を工夫しています。また、中庭菜園の収穫や花壇の水やり、ベンチでの外気浴等も楽しんでいます。中庭に植えた球根の開花も楽しみの一つです。毎日短時間でも外気に触れ気分転換が図れるような環境づくりに努めています。また、家族との外出や宿泊等も支援しています。感染予防対策に配慮し、日常的な外出を展開しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が安心していただけるように、希望があればご家族に相談し、財布を持っていたり、買い物もできる方はご自身で使ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の対応を行っている。手紙もご本人の希望があれば書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースやソファ、中庭等個々にあわせた居心地のよい空間づくりに努めている。フロアの壁にも写真や手芸品など季節を感じていただける工夫をしている。	階段踊場の縦窓から玄関前の花壇が見渡せ、季節の彩りを添えています。1・2階のリビング兼食堂は利用者の状況に配慮した生活環境を工夫し、季節感あふれる飾りつけを施しています。毎朝の健康体操やレクリエーション(工作、ゲーム、合唱等)が楽しめる広いスペースを確保し、利用者同士の交流の場になっています。また、2～3人座れるソファや一人椅子を設え、思い思いに寛げるように配慮しています。掃除の行き届いた和やかで居心地の良い生活環境にあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に落ち着いて過ごされている場所を大切にしている。気の合う方同士が自然に関われるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っておられた、タンスや椅子、仏壇、家族の写真など馴染みの物を持ってきていただき、個々にあわせた居心地の良い居室になるよう工夫している。	居室は洋室(14室)、和室(4室)がありベッド、押入れ、エアコン、カーテンを備えています。収納力のある広い押入れは整理整頓が行き届いています。利用者の馴染みのある物も持ち込みができます。家具、家族写真、お気に入りの物等を持ち込み、個々に落ち着いた部屋になっています。室内の生活動線も確保し、家具の転倒防止や角クッション等を取り付けて安全面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など、その方に合わせてわかりやすく表示したりと工夫している。状態に合わせて手すりやイスなどを活用し、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		